

# 1. 温泉の街を散策しよう

## 熱海温泉コース (約2.3km)

学習テーマ



「日本三大温泉」のひとつである熱海は、徳川家康も湯治に訪れているなど、古くから温泉の街として有名です。今でも豊かな湧出量をほこり、街のあらゆる場所で湯けむりが立っているのが見られます。温泉卵をつくったり、足湯につかったりしながら、温泉を満喫しましょう。また、来宮神社の大楠は幹の太さが全国第2位であり、近年ではパワースポットとしても注目されています。樹齢2,000年以上といわれる木からパワーをもらいに出かけましょう。

熱海市



START

JR伊東線 来宮駅

### 1 来宮神社

昔は「木の宮」と記載されるなど、木に宿る神々をおまつりする神社として有名です。推定樹齢2,000年の「大クス」は幹の目通り周囲が23.9mで、全国第2位の巨樹となっています。

### 2 湯前神社

天平勝宝元年(749)に創建されたといわれる神社です。手水舎には掛け流しの温泉があり、実際にお湯に触ることができます。

### 3 大湯間欠泉

徳川家康が江戸までお湯を運ばせていたとされる、古くから有名な温泉です。昔は1日6回、湯と蒸気を交互に噴出していましたが、昭和初期に止まってしまいました。昭和37年(1962)に現在の機械仕掛けによる人工間欠泉となりました。

### 4 小沢の湯

蒸気の噴出口に備え付けのザルがあり、高温の蒸気を利用して温泉卵を作ることができます。また、熱海市の水道水源のひとつである丹那湧水の飲用水栓もあります。

### 5 野中の湯

この辺りは、かつて泥の中に湯が噴いて、杖で突けば湧き出たといわれています。今でも熱い蒸気が勢よく噴出しているのを見ることができます。

### 6 駅前間欠泉・家康の湯

「熱海駅前間欠泉」は昭和51年(1976)に大湯間欠泉を模してつくられたもので、4分ごとに1分間噴出します。また、「家康の湯」はナトリウム・カルシウム・塩化物・硫酸塩を含む温泉で、掛け流しの足湯が楽しめます。



GOAL

JR東海道本線 熱海駅

## 環境学習プログラム

### 巨樹を見て感じよう!

地上から約1.3mの位置での幹の周囲が3m以上の木を「巨樹」と呼んでいます。平成12年(2000)に行われた環境省の調査によると、全国で6.4万本以上の巨樹が確認されています。神社などに出かけて、実際の巨樹を見てみましょう。あまりの存在感に圧倒されるのではないのでしょうか。巨樹が生きてきた時間の流れを想像し、そのスケールの大きさを感じてみましょう。



### クスノキのにおいをかいでみよう!

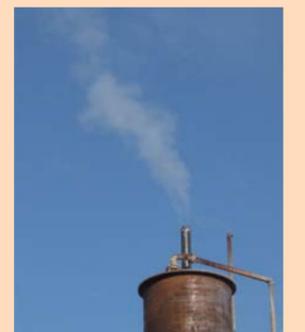
クスノキは幹や枝、葉などすべてに「樟脳」という成分を含んでいます。この樟脳には防虫効果があり、昔から防虫剤、タンス、社寺の建築などに使われてきました。地面に落ちているクスノキの緑の葉を拾い、手でもんでみましょう。ツンとした独特の香りを楽しむことができます。



### 温泉の使い方を考えよう!

古くから温泉は、怪我や病気を治す効能が高いと信じられ、長期滞在して療養する「湯治」に利用されてきました。そして、その湯治客を泊める宿泊施設が温泉宿となり、熱海のような保養地が発展してきました。

また、温泉は入浴以外にも、温泉まんじゅうや温泉卵などの食品加工・製造、地熱や温泉を使った暖房や園芸施設、足湯や飲泉の観光利用など、さまざまな利用方法があります。温泉地に行った時に、どんな使い方をしているのか調べてみましょう。



温泉の湯けむり



温泉まんじゅう